私立大学情報教育協会

教育コンテンツ相互利用システム

コンテンツ管理 **CGI**
インストールマニュアル

目次

【備考】
このマニュアル上では枠の使い方を下記のようにしています。

コマンドラインに入力するコマンド
　内容を修正する部分は　　で表現しています。

テキストファイルなどの内容部分
　内容を修正する部分は　　で表現しています。

必要に応じターミナル画面のキャプチャー画像を添える。

本文中のホスト名や IP アドレスは、実在のものではない。

1 環境

1.1 バージョン

No.	ソフトウェア	バージョン
1	コンテンツ管理 CGI	1.0

1.2 インストール環境

コンテンツ管理 CGI のインストールは以下の環境を前提とする。

Kind	Software	Version	Note
OS	CentOS	4.8	
Language	Perl	5.8.5	CentOS4.8 に含まれる
WebServer	Apache	2.0.52	CentOS4.8 に含まれる

2　インストール手順

コンテンツ管理 CGI のインストールは下記の順番にて行う。

① OS のインストール
② OS の環境設定
③ コンテンツ管理 CGI のインストール
④ その他

以下順に説明する。

2.1　前提条件

- 各権利者の FTP アカウントが、同一グループ(contents)に含まれており、httpd(apache)が動作するアカウントもこのグループに含める必要があります。
- 各権利者の FTP アカウントのホームディレクトリが、/var/www/home 直下であるとします。
- 各権利者の FTP アカウントのホームディレクトリに対して、httpd(apache)による書き込み権限が必要です。(0775)
- コンテンツファイルの名称に関しては、日本語に対応していない。

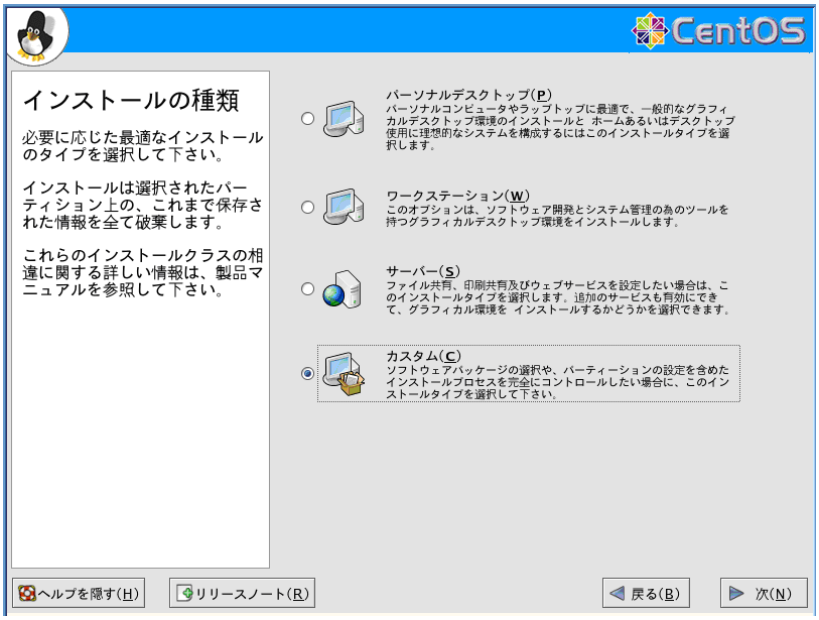
2.1.1　CentOS

具体的なインストール手順についてはハードウェア構成やネットワーク、運用のポリシー等に依存するため、割愛する。

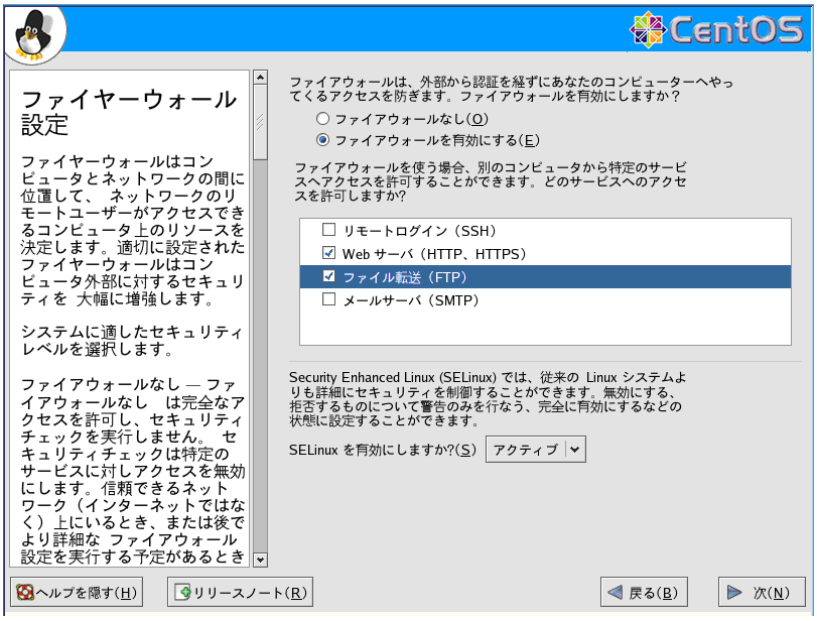
ここでは最低限必要なことのみ記載する。

なお、FTP に関する記述は、FTP によるアップロードを利用する場合にのみ適用する。
インストール作業には、SSH を使用することを前提として説明している。

（1）インストールの種類で「カスタム」を選択



（2）ファイアウォールの設定



- WWW （ポート８０）を許可する設定が必要
- SSH （ポート２２）を許可する設定が必要
- FTP にてファイルのアップロードを行う場合は FTP を許可する必要あり。
- インストール作業には、SSH の使用を推奨します。

※「ファイアウォールなし」でも可

(3) パッケージ選択

以下のパッケージを選択する。

- Webサーバ
- FTPサーバ
- ソフトウェア開発

そのほか必要に応じて選択する

(4) アカウントの設定

root 以外に

manager アカウントを作成する。

※ インストール作業用に使用するので、manager でなくてもよい。

```
useradd manager
passwd manager
```

contents アカウントを作成する。

※ CGI によるファイルのアップロードで使用する。

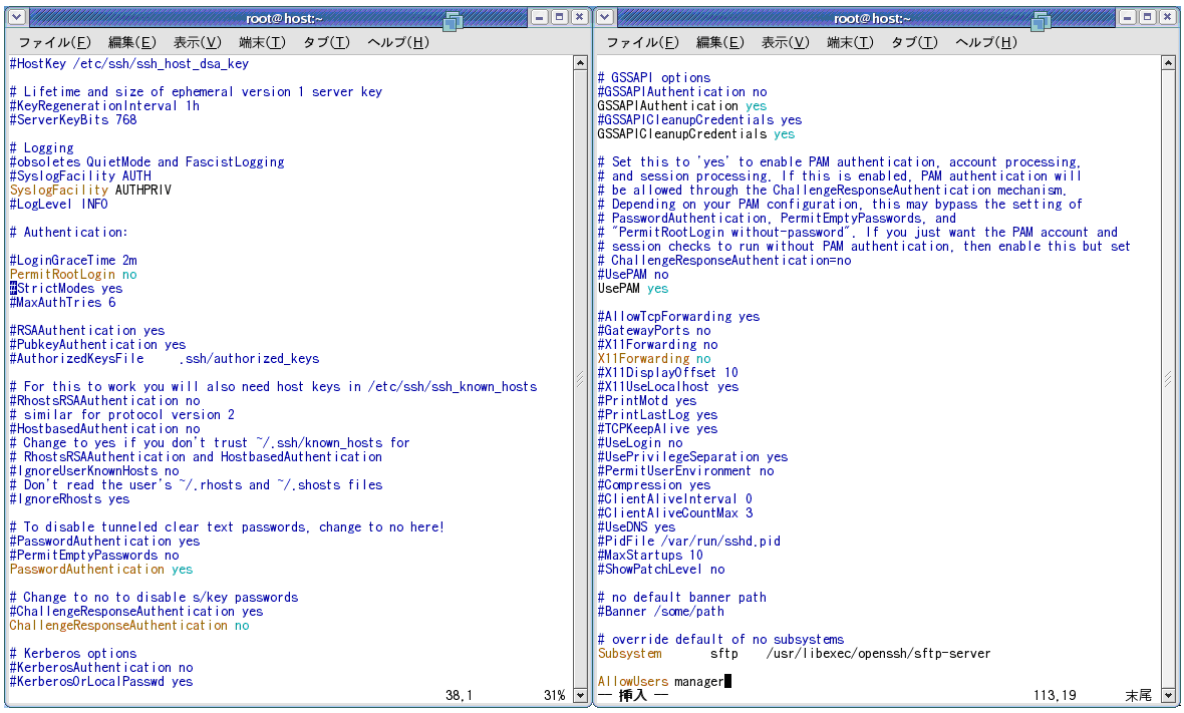
※ ログインさせない為に nologin とした上で、ホームディレクトリを apache ホームディレクトリの下に作成する。

```
useradd -d /var/www/home -s /sbin/nologin contents
```

2.2　SSHD の設定

この作業は、管理者権限を必要とする。
インストール直後は、SSHD がリモートターミナルとして動作しているが、管理者権限（root）でログインできてしまうので、設定変更が必要。

```
vi /etc/ssh/sshd_config
```




```
# 以下の変更を行う
#PermitRootLogin yes
PermitRootLogin no
X11Forwarding no
# 以下の項目を追加
AllowUsers manager
```

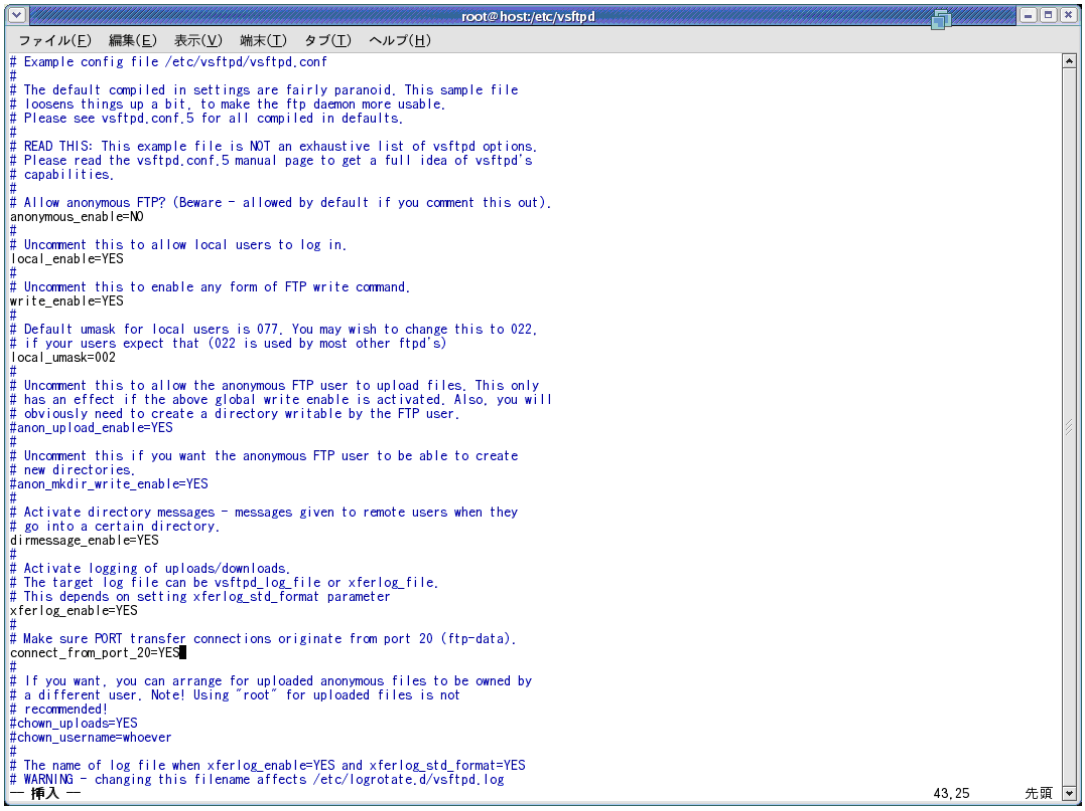
変更を行った後は、

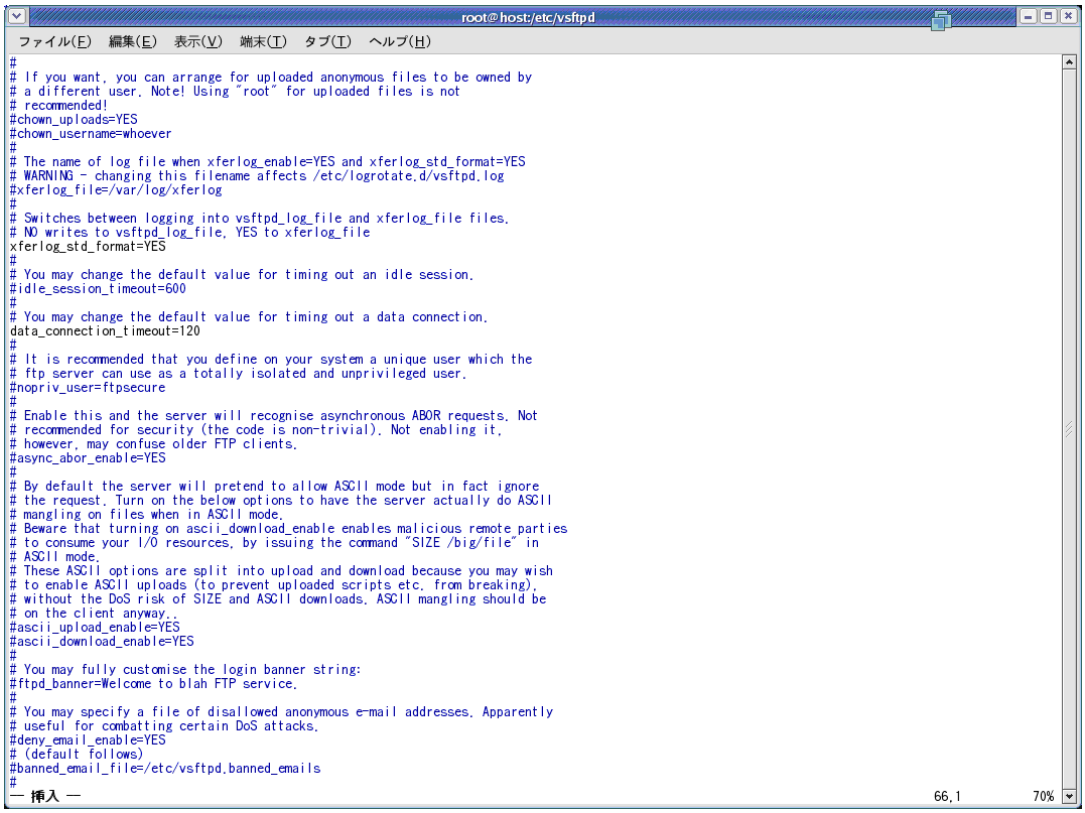
```
service sshd restart
```

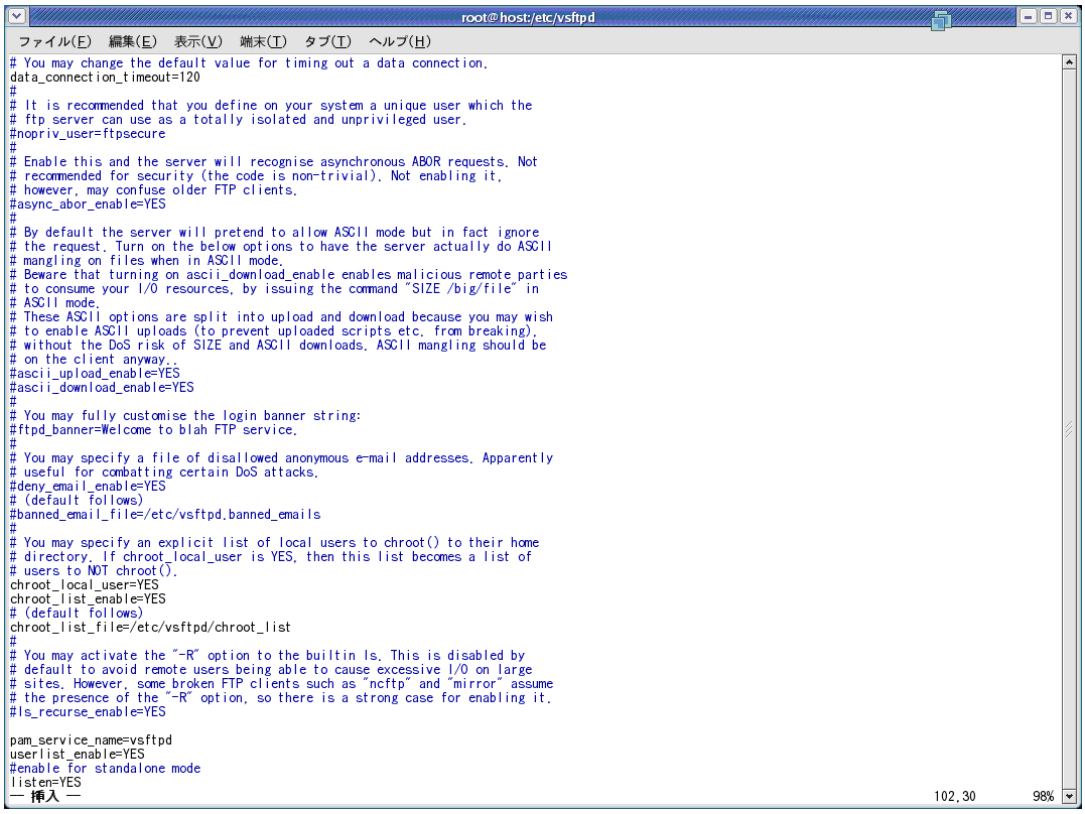
2.3　VSFTPD の設定

この作業は、管理者権限を必要とする。
コンテンツのアップロードに FTP を用いる場合には、VSFTPD を用いる。インストール直後には、ユーザーは、他のディレクトリを参照できてしまうので、chroot の制約を設定する必要がある。

```
vi /etc/vsftpd/vsftpd.conf
```








```
# 以下の変更を行う
anonymous_enable=NO
write_enable=YES
local_umask=002
chroot_local_user=YES
chroot_list_enable=YES
chroot_list_file=/etc/vsftpd/chroot_list

#項目の記述がないものは、追記をする。
```

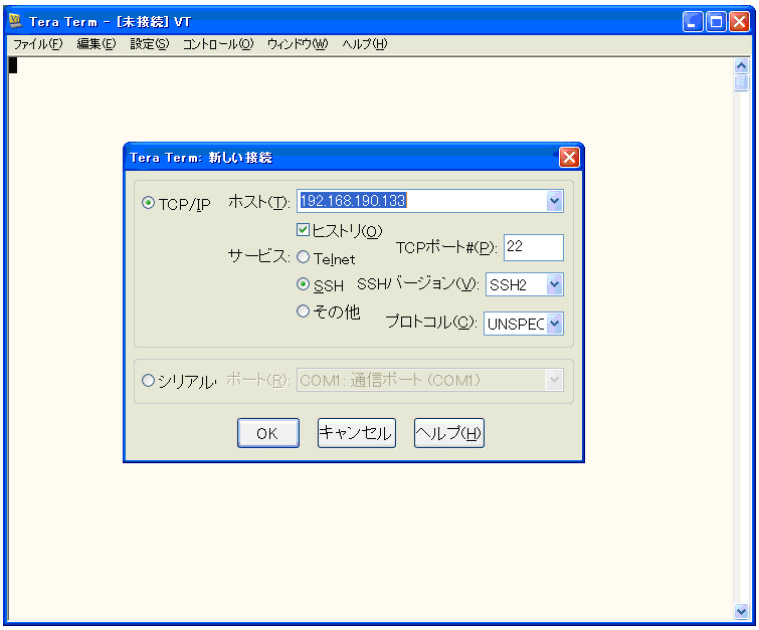
変更を行った後は、

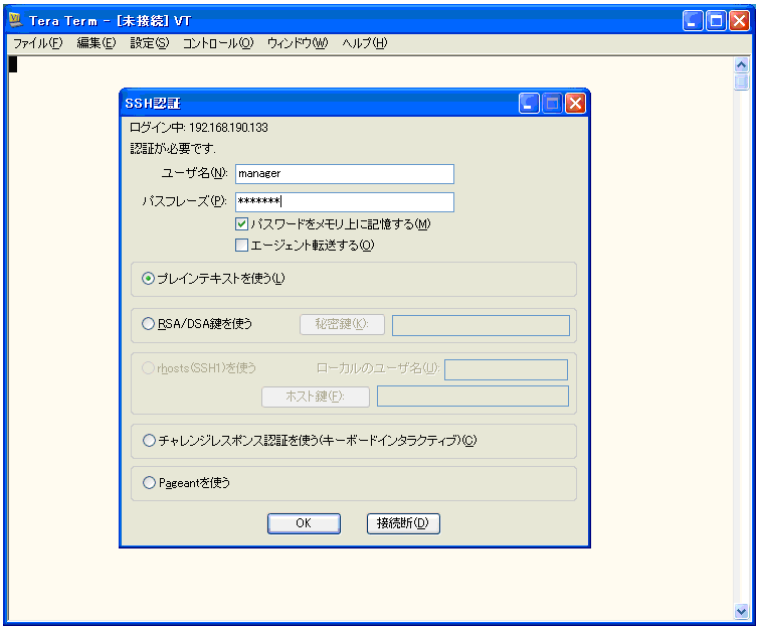
```
service vsftpd restart
```

2.4　コンテンツ管理 CGI のインストール

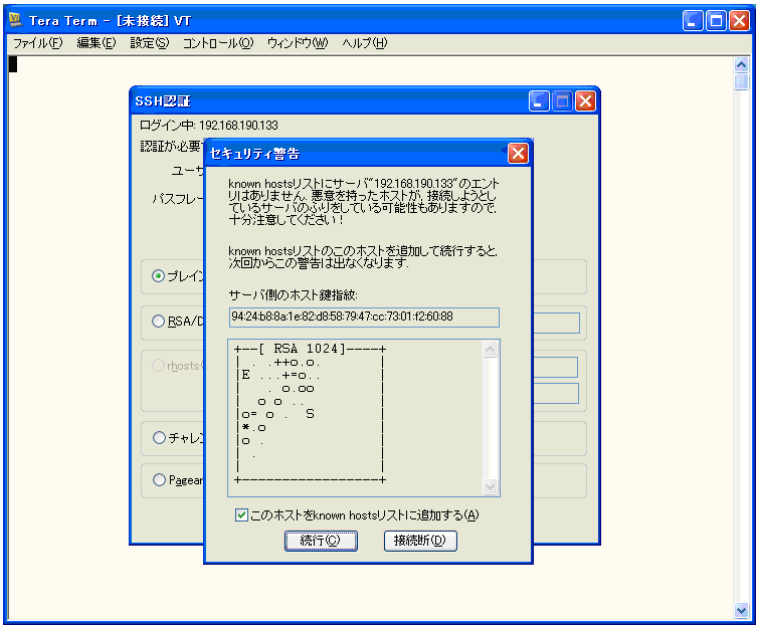
コンテンツ管理 CGI のパッケージをサーバに転送する為には、Tera Term 等を用いる。
ここでは、Tera Term によるインストール手順を説明する。

- Tera Term を起動し manager でサーバの SSH ポートにログインする。

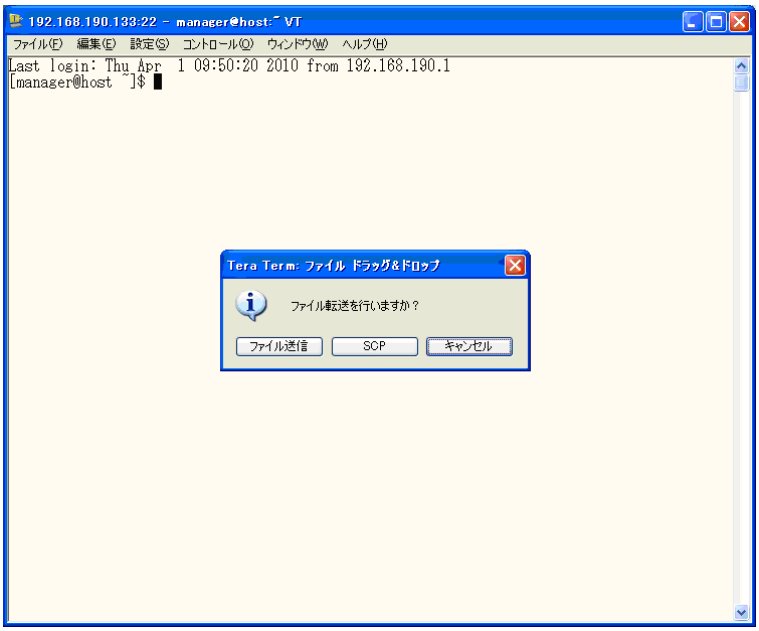




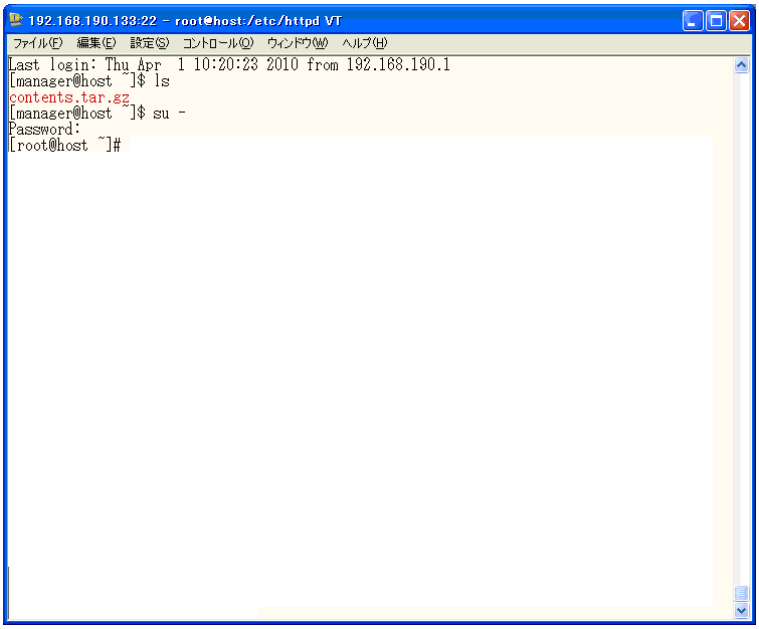
※　初回起動時は、サーバの認証を求められる。



- コンテンツ管理 CGI パッケージ（contents.1.0.tar.gz）を Tera Term にドラッグ＆ドロップする。
  ※　ドラッグ＆ドロップ時に転送方法の問い合わせがあるが、SCP を選択する。



- アップロードしたことを確認して管理者権限に切り替える。



- Manager のホームディレクトリにあるコンテンツ管理パッケージを apache のホームディレクトリにコピーする。

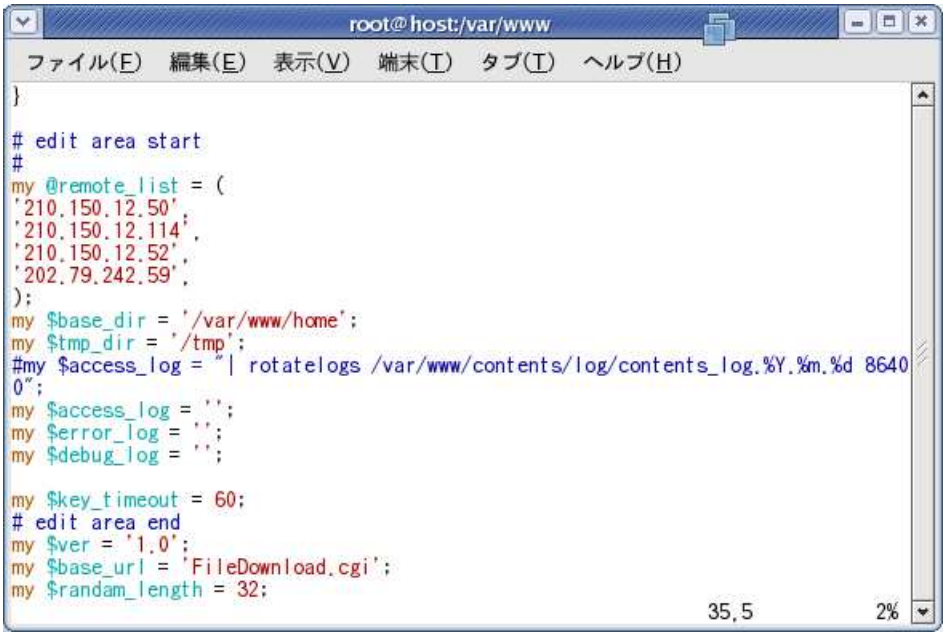
```
cp ~contents/contents.tar.gz ~apache/
```

- apache のホームディレクトリに移動して、contents.1.0.tar.gz を解凍する。

```
cd ~apache
tar zxvf contents.tar.gz
```

- コンテンツ管理 CGI の設定ファイルを編集する。

```
vi ~apache/contents/ContentsManage/CommonMange.pm
```



※ 編集対象は、以下の３点

my $remote_list = (

'xxx.xxx.xxx.xxx' # （私情協側管理システム IP アドレス）

);

my $base_dir = '/var/www/home'; （権利者アカウント管理ディレクトリ）

my $tmp_dir = '/tmp'; （一時ファイル作成場所）

my $access_log = ''; （ログの出力先、空の場合はログを出力しない）

my $error_log = ''; （ログの出力先、空の場合はログを出力しない）

my $debug_log = ''; （通常空）

※ログ出力先の記述フォーマットは、最初に「|」を記述して、コンソールの出力先を指定する。

例) my $access_log = "| rotatelogs /var/www/contents/log/contents_log.%Y.%m.%d 86400"

注意事項)

１． これらの設定に誤りがあると CGI は正常に動作しない。

２． $base_dir を DocumentRoot 配下にするとすべてのコンテンツが公開されてしまう。

- HTTPD の設定ファイルを変更する。

① Apache の設定を変更する。

コンテンツ管理 CGI は、作成するページによって shift_jis および utf-8 を用いるマルチ言語である為、Apache 側での対応が必要となる。

また、Perl の実行は必須である為、設定の確認を行う必要がある。

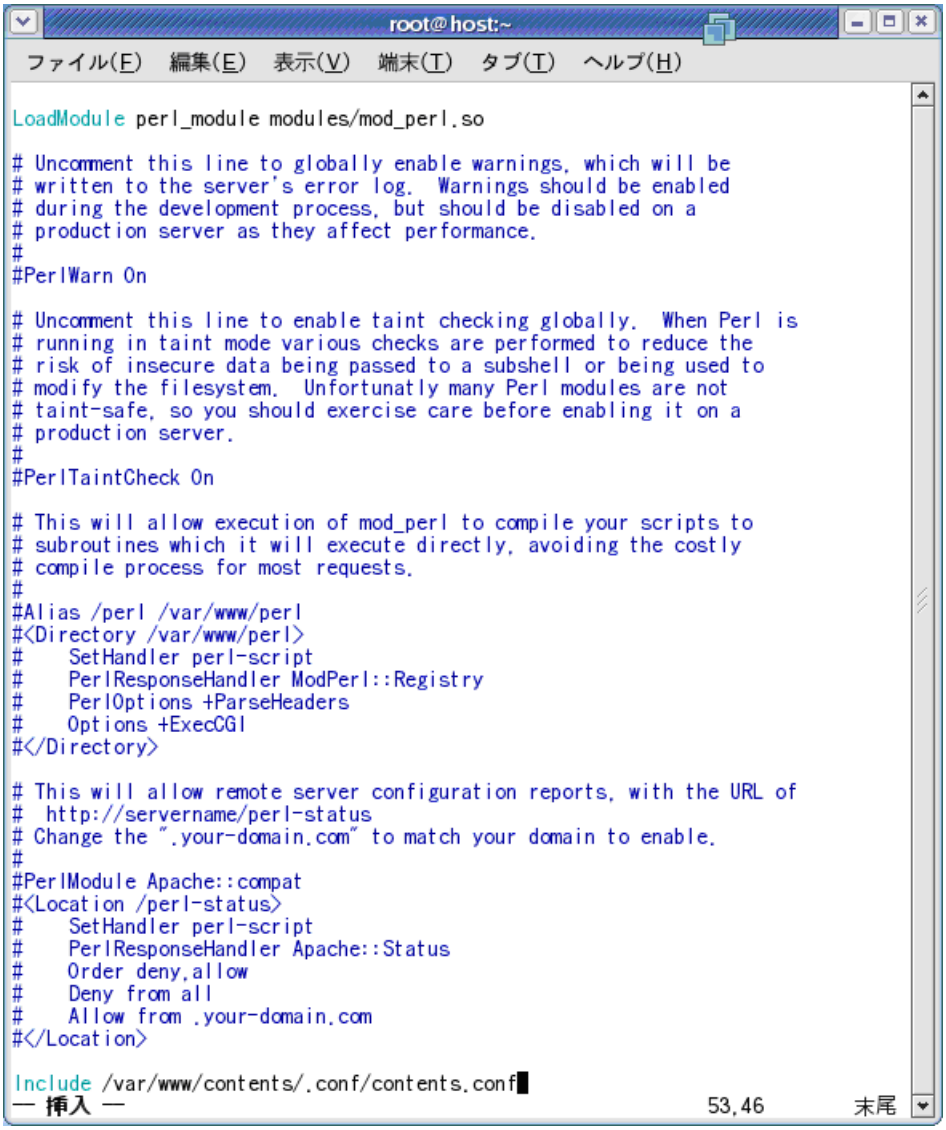
- ✓ Group を contents に変更する。（必須）
- ✓ AddDefaultCharset が定義されている場合は、コメントアウトする。
- ✓ LanguagePriority の先頭に ja を記述する。
- ✓ AddLanguage ja の順番を先頭にする。
- ✓ AddCharset の順番を shift_jis, utf-8, euc-jp の順にする。

② コンテンツ管理 CGI の設定を追加する。
/var/www/contents/.conf/contents.conf にコンテンツ管理 CGI が動作する設定を記述しているので、apache 設定に Include させる。
インストール場所がマニュアルと違うなど必要に応じ contents.conf を編集する。

✓ コンテンツ管理 CGI を実行するホストのディレクティブに Include を追加する

```
Include /var/www/contents/.conf/contents.conf
```

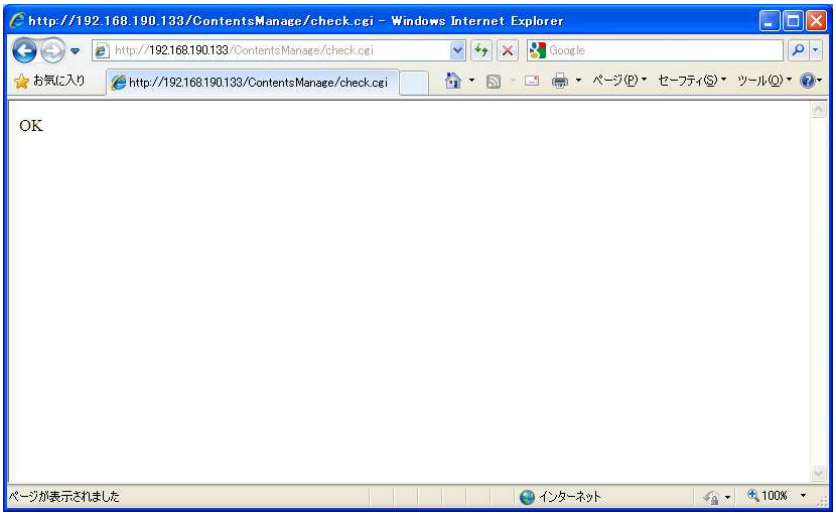
※ 下記の例は、/etc/httpd/conf.d/perl.conf に追記をした。



- 各設定が完了したら、HTTPD の再起動を行う。

```
service httpd restart
```

- 動作確認ページにアクセスして、動作状況を確認する。
  コンテンツ管理 CGI には動作確認用のページ（check.cgi）を用意しているので、ブラウザーから呼び出す。



  Apache の設定が行われていない場合は、この画面が表示されない。

  各ログを設定した場合は、それぞれファイルが作成されていることを確認する。
  （check.cgi にて、test の文字を出力している）

【確認事項】

- FTP を使用したとき、ホームディレクトリ以外に移動できないことを確認する。
- anonymous ユーザでログインすることができないことを確認する。
- SSH でログインできるのが、manager だけであることを確認する。

3　権利者ユーザ登録

(1) umask 変更

ユーザーが通常ファイルを作成するとグループに書き込み権限がないので、/etc/bashrc を編集して、ユーザー全体にファイルやディレクトリの作成時にグループへの書き込み権限を加えられるようにする。

```
vi /etc/bashrc
```

```
# mask 022;
umask 002;
```

(2) useradd デフォルト設定変更

useradd コマンドのデフォルト設定を行うとユーザアカウント作成時の手間が減る。

```
vi /etc/default/useradd
```

※ 以下の設定にすると便利

```
GROUP=[contents の GID]
HOME=/var/www/home
```

(3) ユーザの登録

adduser コマンドで Linux ユーザの登録を行う。GID、UID、ユーザ名は任意で指定する。
ユーザ登録後、passwd コマンドでパスワードを指定する。

```
useradd –g contents –d /var/www/home/[ユーザ名] [ユーザ名]
passwd [ユーザ名]
```

(2)のデフォルト設定を行った場合は、useradd [ユーザ名] のみで作成できる。

(4) ホームディレクトリのパーミッション変更

作成ユーザのホームディレクトリをコンテンツの格納先とする。ダウンロード処理を実行するため、ホームディレクトリのパーミッションを apache の実行ユーザから参照可能なように変更する。

```
chmod 775 /var/www/home/[ユーザ名]
```

(1)の設定を行っている場合は、不要